

# スイートコーン



## 収穫適期は2, 3日

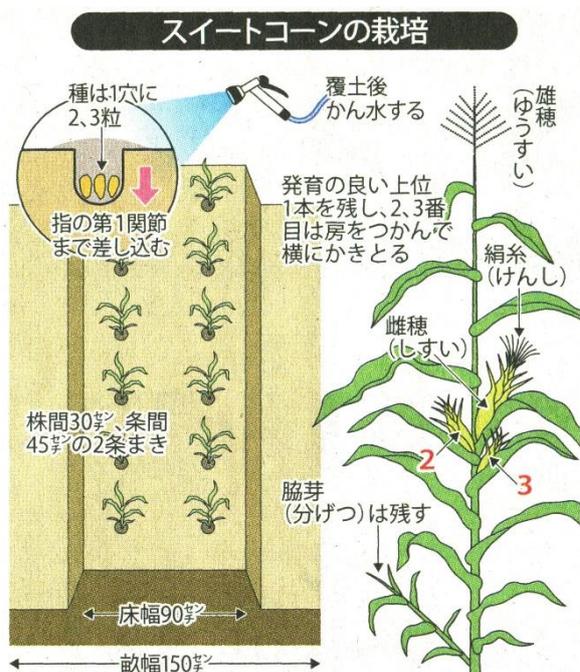
—橋口健一郎

スイートコーンは、トウモロコシの中の甘味種に属するものの総称です。日本への導入は明治以降で、広く栽培されるようになったのは1958（昭和33）年ごろからといわれています。

品種には黄粒種や白色種、あるいは両方が交ざった種類がありますが、異品種で受粉しないようにはかの品種と混作しないことが大切です。

露地栽培の種まきは降霜の心配のない4～5月ですが、マルチをし、トンネル栽培すると2月から播種できます。肥よくて日当たりが良く、排水や水持ちが良い畑が適します。種まきの2, 3週間前に、1平方メートルあたり100グラムの苦土石灰を畑全面に散布し、1週間前に堆肥2キロと化学肥料150グラム（窒素、リン酸、カリ各15%の場合）を施用し、土とよく混ぜます。

栽植密度は、**うね幅150センチ（床幅90センチ）株間30センチ、条間45センチの2条まき**とします。花粉量が少ないと、受粉がうまく行えず実入りが良くない果実になるので、家庭菜園でも2列以上とし、株数を多くするとよいです。



種は1穴に2, 3粒まきます。種子間は間引き作業がしやすいように少し離し、指の第1関節まで差し込み、覆土後かん水します。間引きは草丈10センチぐらいで1本にします。その後、株元から脇芽（わけつ）が出てきますが、脇芽は雌穂の受粉や実入りを良くするので、そのまま伸ばします。

草丈が50センチぐらいになったら追肥を40グラム（窒素、カリ各15%の場合）と土寄せを行い、株の倒伏を防止します。雄穂が出始めたころから生育が旺盛になり水分の吸収が多くなるので、土が乾いたらかん水します。また、アブラムシやアワノメイガの発生にも注意します。

雄穂は株の先端から出ますが、果実になる雌穂は株の中ほどにつき、雄穂の開花するころに絹糸（ひげ）が出て受粉します。雌穂は1株に2, 3本つきますが、上位のものが絹糸の抽出が早く肥大や実入りが優れるので、**絹糸が見え始め**

**たころ一番上の発育の良い穂1本を残し、他は丁寧に房をつかんで横にかきとります。**これもヤングコーンとして利用できます。

収穫は絹糸が出て20日（4月まき）程度で、**絹糸全体が褐色に変色し、先端の子実が乳黄色になったころが目安**です。収穫するとすぐに品質低下が始まり糖分の減少が進むので、気温の低い早朝に収穫し、できるだけ早く食べましょう。収穫適期は、2, 3日と短いので遅れないように注意しましょう。（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室長）

平成27年2月12日（木）／南日本新聞